

令和5年度 第7回 政策決定会議 会議録④

-
- ◆開催日時：令和5年11月29日（水） 14：02～14：19
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、波積副市長、大下教育長
 - ◆説明者：西川総合政策部長、田中企画課長、中井主幹(スマートシティ推進担当)
-

◆審議事項

岸和田市スマートシティ構想素案について・・・・・・・・・・・・・・・・総合政策部企画課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉「格差」は人間社会が抱える最大の課題。産業革命を含む Society1.0 から 4.0 までの間、いくら頑張っても実現せず、逆に格差が拡大してきた中で、機械中心の社会から「人間中心」の社会に戻り、“格差是正”による“幸せ”の実現ということが重要だという哲学部分はしっかり書き込み、スマートシティのこれからの役割をはっきり打ち出すことでわかりやすい構想になった。何のためにつくるのか、何のためにスマートシティをするのかを哲学的に明確にした。

大阪府が策定した「大阪スマートシティ戦略 ver.2.0」では、大阪府が府内市町村をリードするような記載になっている。「ver.1.0」は非常にわかりやすかったが、「ver.2.0」は万博を過度に意識した内容になっている。大阪府が他の自治体をリードすると言っても、大阪府の規模は府内の市町村とは全く違う。むしろ岸和田市のようなところがリードしていく気概を見せられるよう、構想を打ち出し、実現していくこと。

具体例を入れわかりやすくなったが、各部局での短期・中期・長期の展開を示し、構想の具体的な実施にあたり理念を共有し進めること。市民や市議会に対し、スマートシティになるとどうなるのかということ、例えば、バス停ごとの行先や待ち時間、ワクチン接種の予約可能状況、こどもが病気になったときに今すぐ診てくれる病院などが全て手元で確認できるといった身近な課題を解決するのがスマートシティであることをわかりやすく説明していくこと。

最後に、スマートシティのマイナス部分についてもしっかり考えてもらいたい。ランサムウェアや本市でも影響のあった NTT の子会社の情報漏洩、一昨日には LINE ヤフー株式会社の情報流出の話もあり、IT は便利だと言っても不安もあかなか手を出しにくい部分もある。このあたりの対応策も含め新しいスマートシティの構築をめざしてほしい。

〈波積副市長〉当初は、スマートシティ構想そのものは今後の日本を考えるうえで必要だとわかって

いるが、比較的人が密集しており、かつ、だんじりをはじめ非常に自立的な組織・町会がある岸和田市では付加的な価値しかないのではないかと思っていたが、話を聞いていると、スマートシティ構想は、岸和田にはまっていない人向けの中心施策であるということに思い至り、大事だと思い直した次第。岸和田にはまって定住している方は、スマートシティでなくても便利に過ごしていると思う。例えば、いきいき百歳体操もクチコミでどんどん広がり参加者が増えている。そういう人たちはいいが、一方ではまっていない人がいる。はまっていない人の代表例が転出をしていく子育て世代。定住促進にとっての本質問題は、はまっていない人にいかに岸和田市の価値、便利さを再認識してもらうか。スマートシティをツールとして、はまっていない人を念頭に置き施策を考えるとかなり具体的なものができると思う。そういうことも含め、改めて「はまっていない」という観点で見直すと政策が生まれると思うのでぜひその観点から頭の整理をしてもらいたい。

〈教 育 長〉 スマートシティ推進協議会においてさらに具体化し、実例を示し、市民への浸透を図ることが非常に大事なので、当該協議会の活躍に期待している。

〈市 長〉 例えば、交通のことを考えたとき、市内をどうやって移動するか、山手の人が岸和田駅に来るのがどう便利になるかと考えがちだが、人々の実際のニーズは“市内の移動”ではなく、“移動”。岸和田駅より和泉中央駅に早く行けた方が便利という人もいる。市民は市内だけで暮らしているのではなく、自由に生きていく主体であるので、広域の視点が大事。スマートシティという考え方もある意味ボーダーレスなものだし、市の取組として行うが、決して岸和田単独で成立するものではなく、市外や日本全体、世界の仕組みと調和しながら存在するものなので、その視点で推進されたい。市内でしか通用しないことをしても仕方がないので、常に全体と繋がる形で進めてもらいたい。構想は、何よりコンセプトがしっかりと書かれており、共有できるのがよい。

〈総合政策部長〉 本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和5年 11 月 14 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市スマートシティ構想素案について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	岸和田市スマートシティ構想策定において、政策決定会議の専門委員会として、「岸和田市スマートシティ推進委員会」を設置し、構想策定を進めておりますが、構想素案及び素案をもとに実施するパブリックコメントの実施について付議するものです。
説明者	田中 企画課長 中井 主幹
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第7回会議
付議事項	岸和田市スマートシティ構想素案について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	ICTなどの先端技術を活用して、都市課題を解決し、持続可能な都市をめざすスマートシティの推進に向けて、岸和田市スマートシティ構想を策定する。

★総合計画上の位置付け

6020202	基本目標	みんなでつくる持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める
	行政の役割	広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する

★現状と課題

国では、IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、都市課題の解決や都市機能の効率化に活かそうとする「スマートシティ」の推進を進めており、本市においても、将来ビジョン・岸和田において、分野横断的にICT・先端技術を活用して将来像の実現を図ることとしている。現在、大阪府スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)に参加し、個別の取組を進めているが、今後、分野横断的かつ計画的に推進するため、スマートシティの方向性を示すものとして、岸和田市スマートシティ構想を策定する必要がある。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
岸和田市スマートシティ構想策定支援業務委託			13,200						
岸和田市スマートシティ協議会運営支援等				5,418	5,418	5,418	5,418	5,418	
学識アドバイザー報償費			237	237	237	237	237	237	
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源			13,437	5,655	5,655	5,655	5,655	
	その他								
事業費			計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			28,275	5,655	5,655	5,655	5,655	5,655	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
(有)	1	0	0	0	0
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① 協議会参加団体数	団体			0	3	6	10		
② 実装サービス数	件			0	0	1	2		

※事業費及び人員を確約するものではない。